



南魚沼市

新潟県南魚沼市六日町180番地1
 担当課: 福祉保健部保健課
 〒949-6696
 TEL025-773-6811 FAX025-773-6839
<http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/>
 Eメール: boshihoken@city.minamiuonuma.lg.jp

本市のデータ

(1)面積 584.82Km²(平25.11.8)

(2)人口 (人)

45国調	12国調	17国調	22国調	平26.5.31住基
61,995	65,492	63,329	61,624	59,849
65歳以上人口比率(22国調)				26.0%

(3)世帯数

45国調	12国調	17国調	22国調	平26.5.31住基
13,576	18,653	19,000	19,482	19,651

(4)沿革

平成16年11月1日大和町、六日町の合併(市政施行)
 平成17年10月1日塩沢町編入合併

(5)産業構造

区分	就業人口 45国調	就業人口 17国調	就業人口 22国調
1次	16,616人 48.9%	4,060人 12.6%	3,668人 12.0%
2次	8,316人 24.5%	10,221人 31.6%	9,081人 29.6%
3次	9,038人 26.6%	18,045人 55.8%	17,886人 58.3%
計	33,970人	32,344人	30,686人

本市の概要

自然・人・産業の和で築く 安心のまち

南魚沼市は、新潟県南部の魚沼盆地に位置し、首都圏からの太平洋側と新潟市までの日本海側を結ぶ交通の大動脈が集中しています。関越自動車道や上越新幹線などの高速交通によるアクセスは大変便利で、交通や物流の中継地としての役割を果たしています。

こうしたアクセスの利便性によって、スキー産業などの観光産業基盤が充実するとともに、通勤・通学圏は、新潟市近郊はもとより関東圏にまで拡大し、企業の進出だけでなく、国際大学、北里大学保健衛生専門学院などが立地されています。



市の花「カタクリ」

カタクリは、市内各所に群生し、長期間雪に閉ざされるこの地に、春の訪れを教えてくれる可憐な花です。



市の木「コブシ」

コブシは、早春の野山に芳しい純白の花を咲かせ、可憐さとたくましさ併せ持っています。花咲く頃から農作業が始まるため豊作の象徴にもなっています。



名産「南魚沼産 コシヒカリ」



支援に向けての取り組み状況

<対策の方針・目標>

自殺予防対策事業により市民が心の不調等に対して相談しやすい環境づくりや遺族・未遂者支援の充実を図り、自殺で亡くなる人が一人でも少なくなることを目指す。そのために市民一人一人がゲートキーパーになれるよう、地域で自殺の現状やうつ病に対する理解と対応に関する普及啓発を行うとともに自殺で亡くなった方や未遂者の事例検討を積み重ね、効果的な対策について検討する。

<具体的な取組み>

1. 関係者が連携して対策に取り組むうつ自殺認知症予防対策会議(H19～月1、H22～隔月実施)
計60回
参集者:大和病院医師・保健師、ハローワーク南魚沼、地域振興局、消費生活相談員、
保健課、介護保険課包括支援センター職員等
内容:自殺対策推進について意見や情報交換、事業の企画と評価、事例検討
2. 対面型相談支援事業(H20～)
専門相談会「心の健康相談会」(地域振興局「心の健康相談」と共催)延13回、相談者延33名
担当:市立ゆきぐに大和病院院長(精神科) 宮永和夫医師
3. 人材養成事業
 - (1)うつ自殺予防講演会(商工会、各地区)(H20～)計17回、参加者延622名
内容:医師講話「うつ病の理解と対応～自殺予防を考えて」講師:大和病院 宮永和夫氏
 - (2)宗教関係者と保健医療福祉関係者の連携(H20～)参加者延272名(うち住職延89名)
 - (3)相談対応トレーニング研修(H20～)計10回、参加者延405名
 - (4)居宅介護支援・介護サービス事業者等福祉関係者研修会(H22～)計4回、参加者延230名
 - (5)民生児童委員研修会(H23～)計10回、参加者延438名
 - (6)地域で心のサポートを考える会(ミゲートキーパー養成)(H23～)
対象:自殺率の高い地区の役員と地域住民 講師:大和病院 宮永和夫氏
 - (7)アルコール対策研修会(ミゲートキーパー養成研修)(H24～)計2回、参加者延172名
講演「飲酒と心の健康～アルコールの上手な飲み方～」講師:白根緑ヶ丘病院 古谷野好氏
 - (8)市職員向けミゲートキーパー養成事業と気づきチェックシートの活用(H26～予定)
4. 普及啓発事業
 - (1)いのちとこころの法話会(H22～)計12回、参加者延653名
内容:地域住職による生きること、死ぬことについての法話
 - (2)市民公開講座
H22年度「うつの早期発見と予防」精神医療センター五十嵐正徳氏 参加者139名
H24年度「津軽三味線小林親子が語る」小林佳史氏、高橋竹育氏 参加者357名
 - (3)FMゆきぐにラジオ広報
 - ①H24～:20秒スポットCM
 - ②H21.1～3月、H24.9～H25.3月、H25.1月～
住職のお話「心の時間」毎週水12:30頃～(約5分間)再放送 毎週月曜日9:30～
 - (4)市報みなみうおぬまにうつやアルコールと自殺の関連を掲載(9月1日、12月1日、3月1日)
 - (5)住民健診での保健指導 内容:アルコールの心の健康への影響
 - (6)事業所健康教育 計5回、参加者延176名
 - (7)学校保健との連携:県立八海高等学校「教育相談講演会」参加:450名
 - (8)自殺予防普及啓発リーフレット、携帯ストラップ、カード作成と利用
5. ハイリスク者に対する支援(地域振興局と協力し実施)
救急病院への未遂者支援に関する協力依頼(市立ゆきぐに大和病院)
6. 遺族支援
 - ①リーフレットの作成、活用場の検討
 - ②関わりのある遺族・遺児に対する事後介入
7. 現状分析・実態把握
平成23年度～人口動態(死亡小票)の調査や、統計等のデータの蓄積と分析